

立ち読みPDF

岡本吏郎著 Shiro Okamoto

会社にお金が残らない本当の理由

Forest
2545
Shinsyo

新書版へのまえがき

この本は、私が2003年に書いた処女作です。

不思議なことですが、この本が出版されるまで、「お金が残る」という価値観と会計を密接に関係づけた本はありませんでした。

もちろん、「キユツシユフロー計算書」の作成が義務付けられるようになった頃から、「キヤツシユフロー経営」という言葉が盛んに使われるようになりましたが、それも「お金が残る」という概念とは少しニュアンスの違うものでした。

しかし、今では、会計の本に「お金が残る」とか「お金が残らない」という言葉が使われることが普通になり、書店にはそうした本があふれるようになりました。

また、この本に書きたいいくつかのノウハウは、税理士を筆頭に中小企業の会計に関わる専門家の方々に少なからず影響を与えたとも自負しています。

私が最近うれしいことは、2003年の発売時に、この本を読んでいただいた方々から、「あの本のおかげで、不況の今も余裕です」と言われることです。

皮肉なことに、どんなに自社に能力があっても、お金がなければ何も始まりません。確かに、お金では「愛」は買えません。お金がなければ自社の能力が発揮できないのも事実です。

能力がなくて、お金だけがあってもどうにもなりません。いくら能力があっても、それを発揮するには、お金が絶対に必要です。自社の能力を活かし、社会貢献する…と叫んでみても、お金がなくては何も動きません。お金と能力は、経営の両輪なのです。

ずいぶん、当たり前のことを偉そうに言っていました。その「当たり前」ができていない。そういう中小企業が多いのが現実です。

私が主宰するイー・アンド・パートナーズ税理士法人の分析、研究では、お金が残るか残らないかの差は、それほど大きくないことがわかっています。ほんのちよつとした「当たり前」の認識の差が、明暗を大きく分けています。

そして、その認識の差の結果は、当初はそれほど大きくはありませんが、どこかである分岐点を通過すると、元に戻れなくなっているようです。

では、その認識の差とは何か？

それは、ぜひ新書で生まれ変わったこの『会社にお金が残らない本当の理由』をお読みください。ここにすべてが書いてあります。中には、中小企業の平均的な現実から見ると、少しハードルの高い数値を提示しているところもありますが、私の周辺には、その数値をクリアーしている中小企業はたくさんあります。また、すぐにはクリアーできないとしても、そうした数値を基準としておくだけでも重要です。その基準の設定も、「認識の差」の一つです。

極端なことを言えば、中小企業経営の会計については、この本に書いてあることの実践だけで十分なはずです。また、もう少し突っ込んだ管理などに興味のある方は、『裏帳簿のススメ』など私の他の会計関係の著書もお読みいただくと、さらに実践的な方法などを紹介しています。

現在、時代は、次の新しい「秩序」に向かって大きく動いています。産業革命以後、私たちが前提としてきた、「流動的な混沌」は終わろうとしています。

日本には、1億2700万人という多くの人が生活をしています。世界に1億人以上の人口を抱える国は、わずか11カ国。人口の多さは、消費市場としての魅力を表すと同時に、誰もが平等に儲けを享受できることは不可能という現実も突きつけています。確か

に、高度成長期という誰もが享受できる時代もありましたが、あくまでも特別な“一時”のことです。

だから……。

もうそれ以上は言う必要がないでしょう。

私たちに与えられた環境は、ほんの少しの知識と努力を続ける者に微笑みます。1億2700万人の国で競争に勝つことは一見難しそうに見えますが、そんなことはありません。くどいようですが、ちよつとした“認識の差”なのです。

時代は、今まで以上に、私たちに“創造力”を要求してきています。私が言うまでもなく“創造力”が発揮できない企業は、これから生き残れません。しかし、その“創造力”を最大限に発揮するためには、やっぱりお金が必要です。冷静に考えてみれば当たり前のことなのですが、“創造力”の源泉もお金なのです。企業経営が、経済活動を通して社会を良くしていくものだとなれば、社会を良くするためにも、お金が残る経営を意識しなくてはならないのです。

2009年11月22日

岡本 吏郎

第1章 システムを知らないからお金が残らない

- ビジネスのルールを知っているか？／14
- ビジネスというゲームの基本ルール／18
- 経営とは利回りを最大にすること！／20
- ルールを知っていても点数の数え方を知らない！／22
- ほとんどの中小企業経営者は点数の数え方を知らない！／25
- ビジネスというゲームのコツ／27
- ビジネス環境を支配する七つのシステム／28
- 最初の到達点——内部留保／30
- 役員報酬はただの「仮払い」！／32
- 「人並みの生活」というワナ／35
- システムを知らず、現実を直視しない人／37
- 小手先の解決法では経営は改善されない！／40
- 「見たくない現実を見ない人」の現実／42

第2章 システムを知らなくてもどうにかなった理由

- 身内に迷惑をかけてゾンビのように生きる中小企業／44
- 働かないヤツほど得をする国ニッポン／48
- それでもやれた中小企業／51
- 私たちは歴史的にまれな知識を持って育った／56
- 土地が上がるという常識も歴史的に見れば…／60
- 自分の価値で考える／61
- 「いい人」ほど儲かっていない！／63
- 「お金を守る」とは、どういうことか？／65

第3章 システムの正体を探る

- システムはシステムを知らない人には冷たい！／68
- システム① 収入／71
- システム② 支出／78

第4章

数字はこうやって考える

- システム③ リスクのある借入れ、リスクのない借入れ／87
- システム④ “がっばらい”の帝王。そして、ゾンビを生む日本の税制／107
- システム⑤ 「決算書」を読んでも経営は良くなるのに…／123
- システム⑥ 価格の意味を考える／138
- システム⑦ リスク／144
- 四つの数字をおさえれば誰でもお金を残すことができる／154
- 絶対おさえなくておべき数字／156
- 一人当たり付加価値／157
- 労働分配率／162
- 一人当たり経常利益／168
- ROA（総資本経常利益率）、CROA（総資本キャッシュフロー率）／172
- 競争相手は上場企業／175
- 経営にはライバルが必要／177

●役員報酬とは「ただの数字」／179

●「役員報酬」は社長のお金ではない！／184

●「役員報酬」はあくまでも合法的裏金／185

●実力以上の支出をするからお金が残らないだけ／186

●家計費がいくらが妥当なんて考えたことがあるか？／187

●裏帳簿のススメ／189

① 一人当たり経常利益／190

② 役員報酬分配率／193

③ ROA（総資本経常利益率）／194

●①②③の結果をどう使うか？／195

●独自指標を持つとう／199

第5章 システムの中をどう泳ぐか？

●ビジネス万有引力の法則／206

●会社を大きくしてはいけない／206

◎ 収穫遞減の法則	／	208
◎ 「かっぱらいの世」での行動原理	／	211
◎ 「安いところから高いところ」へが基本	／	212
◎ 1・3・5の法則	／	216
◎ まずはスピードありき	／	220
◎ プッシュカートビジネス	／	227
◎ 「3×7」	／	229
◎ 自宅の名義は奥さん名義	／	232
◎ 安田善次郎のお金哲学	／	234
◎ 資金繰りもままならぬ時は…	／	239

終章

クリエイティブ・マイノリティー（創造的少数者）